

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月

課題番号：18500503

研究課題名(和文) 英国に残存する民俗フットボールの研究 –存続意義とスポーツ  
の近代化の過程の考察–

研究課題名(英文) A Study about Folk Football Games Surviving in Britain

研究代表者 名古屋短期大学 保育科 教授 吉田 文久 30191571

研究分野：総合・新領域系、総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学、1402

キーワード：民俗フットボール 存続意義 担い手 多様性 変容

## 1. 研究計画の概要

本研究は、英国に残存する民俗フットボールの調査を通して、スポーツ史、スポーツ人類学において議論されてきた「伝統」と「近代化」の対立と共存という問題に一つの示唆を与えるとともに、近代スポーツを批判的に検討することにより、21世紀のスポーツのあり方を提示することを目的としている。そのための具体的な作業としては、

- (1) まず、現時点で確認されている英国に残存する 16 箇所のうち 13 箇所（ゲーム開催日が重なるために 4 年間では調査しきれないため）のゲームを観戦し、資料収集にあたる。
  - (2) それらのゲームを整理する視点として、大きく①ゲームの成立 ②ゲームの発展過程 ③競技方法・内容 ④ゲームの社会的意味の 4 項目をもとに、それぞれに細目を設定した。
  - (3) 整理された内容から民俗フットボールの独自性、類似性を抽出し、その多様性について考察する。
  - (4) ゲームが残存してきた背景やそのプロセスを考察する。
- とした。

文章化された資料が少なく、現地での資料収集がどれだけできるかが重要となるため、文献収集に加え、地元住民にインタビューし、できればアンケートができるまでの関係づくりに努めたい。また英国の民俗フットボール研究者との交流も図り、ゲーム理解に役立てたい。

## 2. 研究の進捗状況

初年度(平成 18 年度)は、国際情勢の悪化により渡英の危険性が大きいことから夏季の調査を直前で断念せざるを得ず、修正を強いられた。また燃料費の高騰から予算的に複数回の調査及び滞在期間も縮小を検討せざるを得なくなり、本調査のみ調査活動となった。しかしながら、その分現地での調査がスムーズにいくように事前準備をし、ゲームの観戦、資料収集、インタビューに取り組むことができた。

特に、インターネットによる情報収集により、ゲームを組織・運営する委員会の広報担当者と接触し、現地での面談を約束することができたことは、現地での調査における進行をかなりスムーズにさせ、委員会のメンバーしか参加できない会合やゲーム前後のセレモニー、パーティーにも出席できたという貴重な機会を与えてもらった。

ゲームの観戦においては、ゲームをできるだけ正確に記録することを心がけ、写真とビデオに無事納めることができ、日本でゲームの様子を臨場感をもって再現できるものと思われる。

資料収集に関しては、現地の図書館での作業に加え、先述の委員会のメンバーからの資料提供を受け、現地に赴かなければ手に入れない絶版の書物の複写も入手することができた。また先述のメンバーとのインタビューも行うことができ、彼らを通して現地の新聞や広報誌に日本から調査にやってきたことが記事にもされた。

そして、その中間報告として、当初予定はしていなかったが、調査を一応終えたスコットランドのゲームについてその独自性と類

似性について国際学会で発表し、和文、英文の論文作成も行った。現在は、スコットランドにおける調査からイングランドのゲームの調査に移行している。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

<理由>

若干の修正はあったものの研究計画に沿って研究が進められている。事前にゲーム理解の資料収集はしているものの、実際に現地調査をしている中でいろいろな発見やミスもあり、1度限りの調査では不十分であることを感じたが、現地の人たちの好意的な情報提供に助けられ、予想以上の資料収集ができています。また、ゲームが残存する町を回りながら、民俗フットボールを調査する研究者やそれを報道しようとするテレビ局の関係者にも接触することができ、ネットワークも広がっている。

当初は調査終了後に成果を発表しようと考えていたが、研究期間の途中でまとめておきたいという思いと国際学会への案内を生かそうと考え、スコットランドの調査を整理したものを発表した。また、それにその後の資料整理から得られた分析、情報を含めて和文と英文による論文を作成し発表した。現地の調査においてゲームを運営する委員会のメンバーと交友を深めることができたこと、そして今後の情報提供の約束も取り付けることができたことは今後の調査・研究の大きな助けとなる。

### 4. 今後の研究の推進方策

予定していた13箇所の調査のうち11箇所への訪問調査を終えた。これまで平成18年度にスコットランドに残存するゲームの調査をひとまず終え、アニック Alnwick への調査からイングランドに残存するゲームの調査を始め、平成19年度にセッジフィールド Sedgefield、そして平成20年度にアサーストーン Atherston、アッシュボーン Ashbourne の調査へと進めてきた。平成21年度は残されたセント・アイブス St. Ives、セント・コラム St. Columb の調査にあたる。

現地調査を引き続き行いながらも、21年度は科研費助成の最終年度となるため、英国のスコットランド、イングランドに残存する民俗フットボールのほとんどを訪問し調査できた中で、スコットランド同様に、イングランドのゲームの特徴をまとめ、研究の目的としたゲームの存続意義と近代化のプロセスの考察の作業に入りたい。

スコットランドでは、ゲームの開催日が重

なっていないことから調査をスムーズに行うことができたが、イングランドのゲームの開催日が告解火曜日 (Shrove Tuesday) に重なっていることから、1年に1箇所の調査に限られ、1回の調査における作業にかなりの神経を使い行っている。しかし、それでも帰国後にいくつかの疑問点が生まれ、それらの確認のための再調査の必要性が見いだされ、また当初の計画段階で承知されていたことではあるが、すべてのゲームを観戦・調査する必要性を強く感じていることから、研究期間終了後もぜひ調査・研究を継続したいと考えている。

### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 1 件)

吉田文久: 'Investigation of Folk Football Games Surviving in Scotland -Differences and Similarities-', 名古屋短期大学研究紀要、第47号、2009年3月、84頁～94頁

[学会発表] (計 1 件)

吉田文久: 'Investigation of the Folk Football Games Surviving in Scotland -the differences and similarities-', 国際体育・スポーツ史学会 (ISHPES)、国際スポーツ社会学会 (ISSA) 合同国際会議、2007年8月1日、コペンハーゲン大学 (デンマーク)

[図書] (計 1 件)

吉田文久: 「英国スコットランドに残存する民俗フットボールについて～その独自性と類似性～」、『スポーツ学の冒険』(船井廣則、松本芳明、三井悦子、竹谷和之編著)、黎明書房、2009年3月、109頁～120頁